

4K@30、HDCP 対応 ビデオウォールプロセッサ

DIVIP804KC

<ユーザーズガイド>

取扱説明書 Ver.1.0.0

- この度は、本製品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
- 本製品の性能を十分に引き出してご活用いただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、お読みになった後は、本製品近くの見やすい場所に保管してください。

商標について

- HDMI、High-Definition Multimedia Interface、および HDMI ロゴ は、米国およびその他の国における HDMI Licensing, LLC の商標または、登録商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。なお、本文中において、®マークや™マークを省略している場合があります。

この取扱説明書をお読みいただく前に

- この取扱説明書の無断転載を禁じます。
- お客様がお持ちの製品のバージョンによっては、この取扱説明書に記載される外観図などが一部異なる場合がありますのでご了承ください。
- 取扱説明書は改善のため、事前の予告なく変更することがあります。最新の取扱説明書は、弊社のホームページからダウンロードすることができます。

<http://www.arvanics.com>

取扱説明書の分冊構成

この取扱説明書は、目的に応じて分冊で提供しています。必要に応じて、各取扱説明書をお読みください。なお、クイックスタートガイドおよびコマンドガイドについては、弊社ホームページからのダウンロード提供のみになります。

■ユーザーズガイド (本書)

[目的]

- ・ 設置し、周辺機器と接続をする。
- ・ 入出力調整や設定などをする。

■クイックスタートガイド

[目的]

- ・ 簡単な操作方法を知る。

■コマンドガイド

[目的]

- ・ シリアル通信および LAN 通信などによる外部制御をする。



安全上のご注意







製品をご使用前に必ずお読みください。

この取扱説明書には、お客様や他の人への危害や損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。

次の内容（表示・図記号）をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。


「警告」、「注意」、「記号」の意味

表示	表示の意味
 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容を示します。

図記号	図記号の意味	記号例
 注意	この記号は、警告・注意を促すことを告げるものです。 図の中に具体的な注意内容が描かれています。	 感電注意
 禁止	この記号は、禁止行為であることを告げるものです。 図の中に具体的な禁止内容が描かれています。	 分解禁止
 指示	この記号は、行為を強要したり指示したりする内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容が描かれています。	 プラグを抜く

警告

■重い製品を持ち上げるときは

 指示	<p>●持ち上げるときは2名以上で作業する</p> <p>製品を持ち上げる時、膝を伸ばしたまま腰を曲げて持ち上げる動作は、腰への負担が非常に強く危険です。片足を少し前に出して膝を曲げ、腰を十分に降ろしてから、身体を製品に近づけて身体全体で持ち上げるようにしてください。</p> <p>一人での持ち上げは負傷を招く原因となります。</p>
---	--



警告

■設置・接続するときは

 禁止	<p>●不安定な場所に置かない 水平で安定したところに設置してください。本体が落下・転倒してけがの原因になります。</p> <p>●振動のある場所に設置するときは固定する 振動で本体が移動・転倒し、けがの原因になります。</p>
 指示	<p>●据付工事は技術・技能を有する専門業者が行う 技術・技能を有する専門業者が据え付けを行うことを前提に販売されているものです。据え付け・取り付けは、必ず工事専門業者または弊社営業部までお問い合わせください。火災・感電・けが・器物破損の原因になります。</p> <p>●電源プラグは、コンセントから抜きやすいように設置する 万一の異常・故障のときや、長時間使用しないときなどに役立ちます。</p> <p>●電源プラグは指定電源電圧のコンセントに根元まで確実に差し込む 差し込み方が悪いと、発熱により火災・感電の原因になります。傷んだ電源プラグ、緩んだコンセントは使用しないでください。</p> <p>●機器を接続するときは、電源プラグをコンセントから抜く 機器をケーブルで接続するときは、長距離伝送接続なども含めて、関係するすべての機器の電源プラグをコンセントから抜いてください。その後に、各機器の信号・制御ケーブルを接続し、各機器の電源プラグをコンセントに接続してください。 本体と他の機器との接地電位差により、火災・感電または機器の破損が発生する場合があります。</p>

■お使いのときは

 禁止	<p>●異物をいれない 通風孔などから金属類や紙などの燃えやすいものが内部に入った場合、火災・感電の原因になります。</p> <p>●電源コード・ACアダプタは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傷つけたり、延長するなど加工したり、過熱したりしない ・引っ張ったり、重いものを乗せたり、はさんだりしない ・無理に曲げたり、ねじったり、束ねたりしない <p>そのまま使用すると、火災・感電の原因になります。電源コード・ACアダプタが傷んだら、弊社営業部までお問い合わせください。</p>
 分解禁止	<p>●修理・改造・分解はしない 内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因になります。内部の点検・調整・修理は、弊社営業部までお問い合わせください。</p>
 接触禁止	<p>●雷が鳴り出したら本体と、本体へ接続されたケーブル類には触れない 感電の原因になります。</p>
 指示	<p>●電源プラグの埃などは定期的にとる 電源プラグの絶縁低下により、火災の原因になります。</p>




■もしものときは

 プラグを抜く	<p>●煙が出ている、異音、異臭がするときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く そのまま使用すると、火災・感電の原因になります。</p> <p>●落下などにより本体が破損したときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く そのまま使用すると、火災・感電・けがの原因となります。点検・修理については、弊社営業部までお問い合わせください。</p> <p>●内部に水や異物が入ったら、すぐに電源プラグをコンセントから抜く そのまま使用すると、火災・感電の原因になります。</p>
-------------------	---





注意

■設置・接続するときは

 <p>禁止</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●温度の高い場所に置かない 直射日光が当たる場所や温度の高い場所に置くと火災の原因になります。 ●埃・油煙・湿気の多い場所に置かない 埃の多い場所や、加湿器のそばに置くと、火災・感電の原因になります。 ●通風孔をふさがない 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因になります。 ●本体の上に重いものを置かない 倒れたり落ちたりしてけがの原因になります。 ●コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない タコ足配線はしないでください。火災・感電の原因になります。
 <p>ぬれ手禁止</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない 感電の原因になります。
 <p>指示</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●温度と湿度の使用・保存範囲を守る 範囲を超えて使用を続けた場合、火災・感電の原因になります。 ●海拔 2,000 m 以上の場所に設置しない 部品の寿命などに影響を及ぼすおそれや、故障の原因になる場合があります。 ●ラックへ設置するときは、上下に空冷のための隙間を空ける (ラックへ設置できる製品の場合) EIA 相当のラックに設置してください。設置をするときは、上下に空冷のための隙間を空けるよう考慮してください。 また本体を平均的に支えるため、市販の L 型サポートアングルとラック取付金具との併用をお勧めします。 ●ゴム足を取り外した後に、ねじだけをねじ穴に挿入しない (ゴム足付き製品の場合) ゴム足を取り外した後に、ねじだけをねじ穴に挿入することは絶対にお止めください。内部の電気回路や部品に接触し、故障の原因になります。再度ゴム足を取り付ける場合は、付属のゴム足とねじ以外は使用しないでください。

■お使いのときは

 <p>禁止</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●付属の電源コード・AC アダプタ以外のものは使用しない ●付属の電源コード・AC アダプタは本製品専用のため、他の製品には使用しない 不適合により、火災・感電の原因になります。
 <p>プラグを抜く</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●長時間使用しないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜く 万一故障したとき、火災の原因になります。 ●お手入れのときは、電源プラグ・AC アダプタをコンセントから抜く 感電の原因になります。

目次

1. 同梱物の確認	8
2. 製品概要	9
3. 各部名称と働き	10
3.1. フロントパネル	10
3.2. リアパネル	11
4. 基本設定	12
4.1. DIVIP804KC の制御方法	12
4.2. LCD パネルとフロントボタンの基本設定	13
4.3. LCD パネル上のフロントボタンを利用した切換	13
4.4. ログイン手順	14
4.5. 言語設定	15
5. 詳細設定・操作方法	16
5.1. スクリーン設定	16
5.2. カスタム出力解像度	19
5.3. ビデオウィンドウの説明	21
5.4. 入力設定	22
5.5. 詳細設定 (Advanced Configuration)	23
5.5.1. ユーザープリセット (User Presets)	23
5.5.2. ネットワーク設定 (Remote Control)	24
5.5.3. シリアルポート (Serial Port)	24
5.5.4. 日付&時刻 (Date and Time)	25
5.5.5. エクストラ (Extra)	25
5.5.6. 管理 (Admin)	27
5.5.7. ログ	27
5.5.8. ログ (Logging)	28
5.5.9. 情報 (Hardware Monitor Info)	28
5.6. メディアプレーヤー機能	30
5.6.1. プレイリストの作成	30
5.6.2. スケジュールの作成	32
5.7. ビデオウォール操作方法	34
5.8. プロパティ設定 (Property settings)	37
5.8.1. 配置	38
5.8.2. アスペクト比を維持	38
5.8.3. トリミング	39
5.8.4. ソース切替	39
5.8.5. Effects	40
5.8.6. Frame	40
5.8.7. OSD	41
5.9. 音声入出力マトリクス of の操作方法	42
5.10. シナリオ操作	43
5.10.1. DXScenario User Interface	43
5.10.2. シナリオファイルの編集と操作	44
5.10.3. カレンダーを利用した DXScenario ユーザーインターフェース	45
5.10.4. スケジュールイベントの作成	46
5.11. 外部キーボードを使った操作	47
6. 製品仕様	48
7. 正常に動作しないときは	50

1. 同梱物の確認

以下の同梱物がすべてそろっているかご確認ください。

万一、同梱物に不備がありましたら、お手数ですが弊社の本社営業部または各営業所までお問い合わせください。

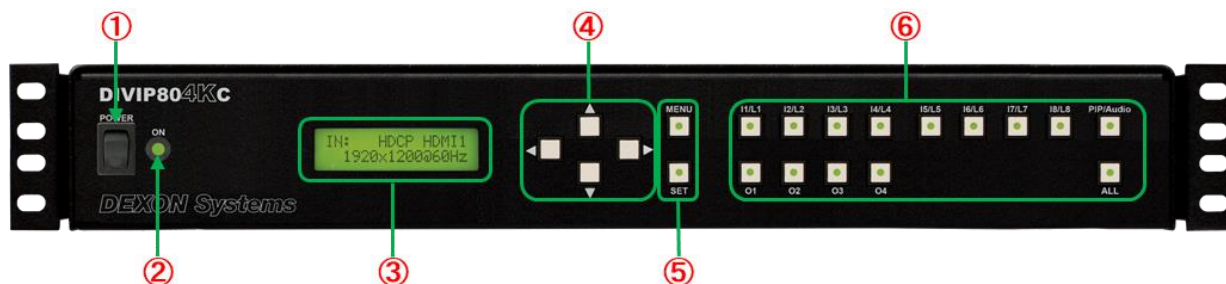
- | | | |
|-----------------|---|-----|
| • DIVIP804KC 本体 | … | 1 台 |
| • 専用 AC コード | … | 1 本 |
| • 取扱説明書(本書) | … | 1 冊 |

2. 製品概要

DIVIP804KC は 4K@30、HDCP 2.2 対応の 8 入力 4 出力のシームレスビデオウォールプロセッサです。入出力は HDMI/DVI のフルデジタルとなります。出力は HDMI と HDBaseT で 2 分配出力が可能です。ユーザーインターフェースにすぐれた制御/設定画面を内蔵しており、LAN 経由で Web ブラウザからアクセスが可能です。また、PinP2 (ピクチャ・イン・ピクチャ) 機能を搭載しており、映像のオーバーレイが可能です。目地をまたいでのウィンドウ表示も可能なためデジタルサイネージ系アプリケーションにおいて 4 面までのマルチディスプレイシステムを構築するのに最適です。

3. 各部名称と働き

3.1. フロントパネル

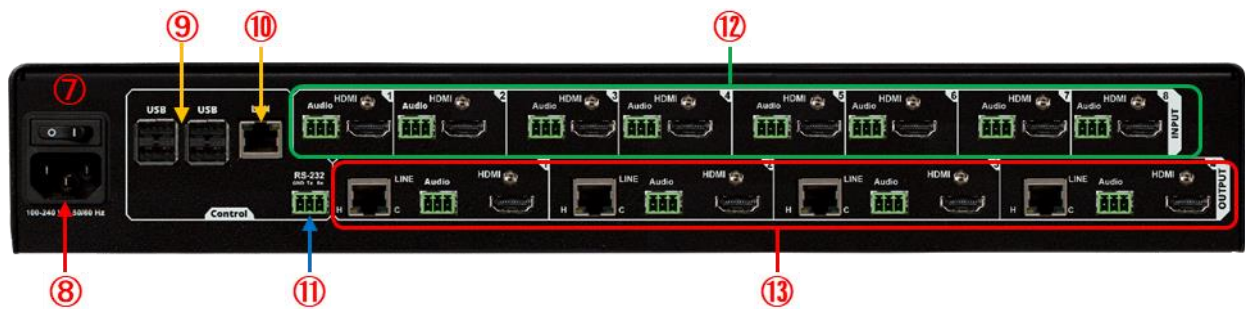


[図 3.1] フロントパネルの外観図

[表 3.1] フロントパネルの各名称と説明

番号	名称	説明
①	スタンバイスイッチ	主電源が入っている際に押すと本機が起動します。
②	パワーLED	電源が入っている際に点灯します。スタンバイ時は消灯します。
③	LCD ディスプレイ	メニューの選択やステータスを確認できます。
④	矢印ボタン	▲▼◀▶のボタンでメニューの選択を行います。
⑤	メニュー / 決定ボタン	メニューをLCDディスプレイに表示します。 設定の決定をします。
⑥	オープンレイアウト / オーバーレイボタン	ボタンをオーバーレイオープンもしくはレイアウト呼び出しとして利用することが可能です。

3.2. リアパネル



[図 3.2] リアパネルの外観図

[表 3.2] リアパネルの各名称と説明

番号	名称	説明
⑦	主電源ボタン	主電源を入れる際に利用します。
⑧	電源	添付の AC コードを接続します。
⑨	USB コネクタ	メディアプレーヤー機能を利用する際に利用します。
⑩	LAN コネクタ	ブラウザでの操作や LAN コマンドを受けることができます。
⑪	RS-232C コネクタ	RS-232C コマンドを受けることができます。
⑫	入力コネクタ	HDMI とアナログオーディオを入力します。
⑬	出力コネクタ	HDMI と HDBaseT、アナログオーディオを出力します。

4. 基本設定

4.1. DIVIP804KC の制御方法

DIVIP804KC は以下の方法で制御することができます。

1. フロントボタンと LCD パネルを利用した制御
フロントボタンと LCD パネルを利用して、本機の基本的な設定変更が可能です。またフロントボタンで入力ソースの個々の映像表示やレイアウト表示を行うことができます。なお、フロントボタンと LCD パネルで全ての設定を行うことはできません。詳細設定は Web browser を使って行ってください。
2. Web browser を利用した制御
DIVIP をローカルエリアネットワークに接続します。DIVIP の IP アドレスを同じネットワーク上にある PC や iOS、アンドロイドタブレットの HTML5 対応ブラウザに入力してください。ネットワークが正常に動作している場合、DXHTML Control アプリケーションのログインウィンドウが表示されます。このログインウィンドウで全ての設定と操作を行うことができます。
3. 外部制御コマンドを利用した制御
外部制御コマンドを利用して、リモートオペレータ PC やタッチパネル等から DIVIP を制御することが可能です。詳細は別冊のコマンドガイドをご確認ください。

4.2. LCD パネルとフロントボタンの基本設定

DIVIP804KC はフロントボタンと LCD パネルによって制御・設定することができます。以下のメニューは「MENU」ボタンを押した後▲▼ボタンを押すことで選択できます。

- **Remote Control**

メニューは IP アドレスやネットワークマスクといったリモート制御のパラメータを含んでいます。設定を保存するには「SET」ボタンを押し、設定を有効にするには「Apply now」を選択して下さい。

- **Button Function**

フロントボタンの操作モードを設定します。以下のモードが利用可能です。

- **Overlay**

フロントボタンにより、個々のオーバーレイウィンドウを操作します。INPUT ボタンによって選択された入力ソースは OUTPUT ボタンによって選択された出力上に表示されます。

- **Layout**

フロントボタンによりあらかじめ指定されたレイアウトを操作します。8 個の利用可能なレイアウトを、フロントボタンのクリックによって呼び出すことができます。

- **FW Update**

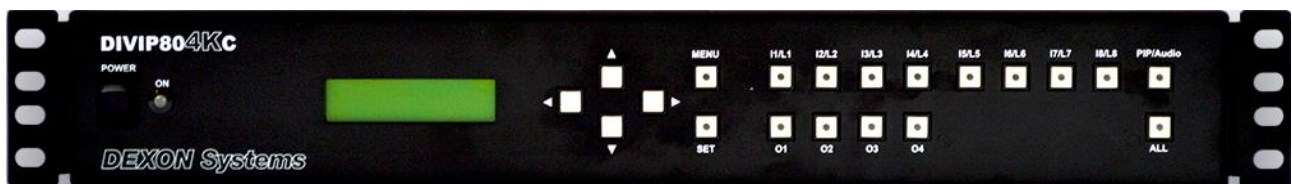
DIVIP のファームウェアアップデートの際に利用します。

- **Factory Reset**

デバイスの全ての設定を工場出荷時に戻します

4.3. LCD パネル上のフロントボタンを利用した切換

DIVIP はフロントボタンと LCD パネルを利用して簡単に切り換えることができます。



[図 4.1] DIVIP804KC のフロントボタン

DIVIP804KC はフロントボタンにより簡単に制御することができます。

- **入力ソースの表示**

入力ソースを表示するには、入力ソース番号のボタンを選択します。その後、入力ソースを表示する出力を選択して下さい。全ての出力に表示する際は、「ALL」ボタンを選択して下さい。

本操作は、「Button Function」のパラメータが「Overlay」に設定されている時に実行可能です。

- **入力ソースの表示終了**

いずれかの入力ボタンを押すと、その入力チャンネルが現在表示されている出力チャンネルのボタンが点灯します。その後、入力ソースを閉じたい出力チャンネルのボタンを選択してください。

全ての出力ポートで入力ソースを閉じる場合は、「CLOSE」ボタンを押してください。

本操作は、「Button Function」のパラメータが「Overlay」に設定されている時に実行可能です。

- **PIP / 音声選択**

「PIP」ボタンを押すと、PIP 機能が有効となります。PIP ボタンが有効な場合、入力ソースと出力ポートを選択して下さい。

音声の接続の制御の際は、「AUDIO」ボタンを押してください。この状態で音声信号のある入力ソースと出力ポートを選択するとして下さい。接続を終了するには、LED の点灯した出力ポートのボタンを再度押してください。「PIP」ボタンと「AUDIO」ボタンが無効の場合、メインチャンネルが制御されます。

本操作は、「Button Function」のパラメータが「Overlay」に設定されている時に実行可能です。

- **レイアウト呼び出し**

レイアウトを呼び出す際は、レイアウト番号を選択して下さい。



本操作は、「Button Function」のパラメータが「Layout」に設定されている時に実行可能です。

4.4. ログイン手順

ステップ1.

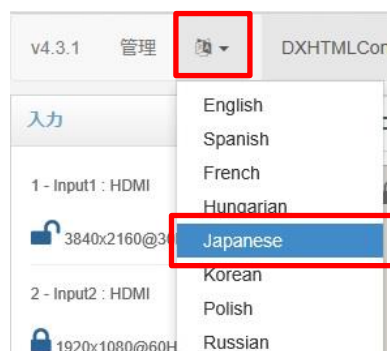
本体背面の LAN ポートとネットワークスイッチ、または PC と LAN ケーブルで接続します。その後、フロントパネルの電源を投入してください。



<p>ステップ2. ネットワーク設定を行います。デフォルト IP アドレスは DHCP 自動取得になっています。IP アドレスはフロントパネルとキー操作によって以下の操作で変更可能です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Advanced ▶ Remote Control ▶ DHCP Enable へ進み、▶ ボタンを押します。 2. ▲▼ボタンで Disable を選び Set ボタンを押します。 3. ◀ ボタンを押して戻り、▲▼ボタンを押して IP Address を選び ▶ ボタンを押します。 4. ▲▼ボタンで IP アドレスを設定し、◀ ボタンで戻ります。 5. ▲▼ボタンを押して Network Mask を選び ▶ ボタンを押します。 6. ▲▼ボタンで IP アドレスのサブネットマスクを設定し、◀ ボタンで戻ります。 7. ▲▼ボタンを押して Apply now を選択し、Set ボタンを押します。 	
<p>ステップ3. PC のウェブブラウザを起動し、アドレスバーに上記で設定した IP アドレスを入力します。ログイン画面が表示されます。 ユーザー名とパスワードを入力してください。 ユーザー名 : Administrator パスワード : dexon</p> <p>*パスワードは Web ブラウザから変更可能です。 *IP アドレス設定後接続がうまくできない場合は、DIVIP804KC 本体と PC を LAN ケーブルで接続した状態で DIVIP804KC を再起動してください。</p>	

4.5. 言語設定

初めてログインした場合、コントロール画面は英語表示になっています。ログイン後、画面上部の言語設定アイコンをクリックし、「Japanese」を選択することで日本語に言語を変更できます。



【図 4.2】言語設定の変更

5. 詳細設定・操作方法

5.1. スクリーン設定

ビデオウォールの設定方法について、以下で説明します。

ステップ1.

ビデオウォールの設定を行うには、画面上部の「DXHTML Control DIVIP」のタブをクリックし「設定」を選択してください。

1. ビデオウォールの構成の設定を行います。
グリッドサイズタブの画面上にてスクリーンの数と配置をクリックします。
2. 映像のベゼル補正についてはベゼル補正の入力項目にて、垂直方向と水平方向のベゼル幅を設定可能です。

背景色 :

スクリーンの背景色を設定します。

出力のタイミング :

スクリーンの解像度を設定します。全ての出力ポートが設定した解像度で出力されるようになります。

Color Format :

出力映像のカラーフォーマット (RGB / YCbCr 4:4:4 / YCbCr 4:2:2) を設定します。

HDCP を有効化 :

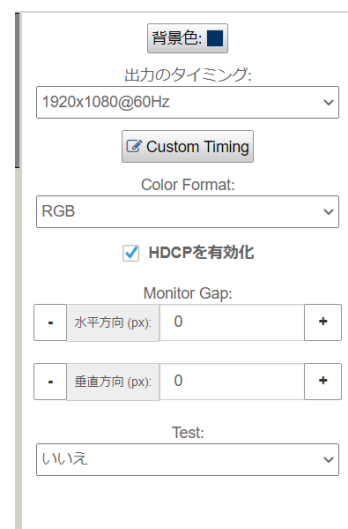
チェックを入れると出力信号に HDCP を付加するようになり、HDCP 対応モニタに HDCP ソース映像を表示できるようになります。

Monitor Gap :

スクリーン間の間隔を設定します。表示器にプロジェクターを使用する場合には、出力映像の境界付近



ビデオウォール設定画面（グリッドサイズ）



設定項目（グリッドサイズ）

を重ね合わせる（オーバーラップする）ことで、境目を目立たなくすることが可能です。
 また、表示器のベゼル幅に合わせた調整も可能です。（ベゼル補正）ベゼル補正を設定することで、ベゼルの跨ぐ映像を歪みなく表示することが可能になります。
 オーバーラップさせたい場合は設定値をマイナス(-)の数値を設定します。ベゼル補正の場合はプラス(+)
 の数値を設定します。

Test :
 スクリーンにテストパターンを表示することが可能です。オーバーラップやベゼル補正の調整時に使用します。

ステップ2.
 個別タブを選択することで、変則的なビデオウォール構成を設定することが可能です。



ビデオウォール設定画面（個別）

表示オプション：
 1x4, 2x2, 4x1 から選択することで、スクリーンの並びを自動的に配置できます。

出力：
 設定を行う対象のスクリーンを選択します。

有効化：
 チェックを外すと、そのスクリーンが非表示になり、映像が出力されなくなります。

背景色：
 スクリーンの背景色を設定します。

出力名：
 スクリーンに固有の名前を登録できます。入力した名前がコントロール画面に表示されます。

出力のタイミング：
 選択したスクリーンの解像度を設定します。

Output Format：
 選択した出力のカラーフォーマット（RGB / YCbCr 4:4:4 / YCbCr 4:2:2）を設定します。

HDCP を有効化：

オプションを表示:

出力:

有効化

背景色:

出力名:

出力のタイミング:

Custom Timing

Output Format:

HDCPを有効化

設定項目 1（個別）

チェックを入れると出力信号に HDCP を付加するようになり、HDCP 対応モニタに HDCP ソース映像を表示できるようになります。

Monitor Position :
 選択したスクリーンの位置を数値指定で設定できます。

Display Area :
 選択したスクリーンの表示領域の大きさを数値指定で設定できます。

Monitor Bezel :
 選択したスクリーンのベゼル幅を数値指定で入力できます。

Test :
 スクリーンにテストパターンを表示することが可能です。オーバーラップやベゼル補正の調整時に使用します。

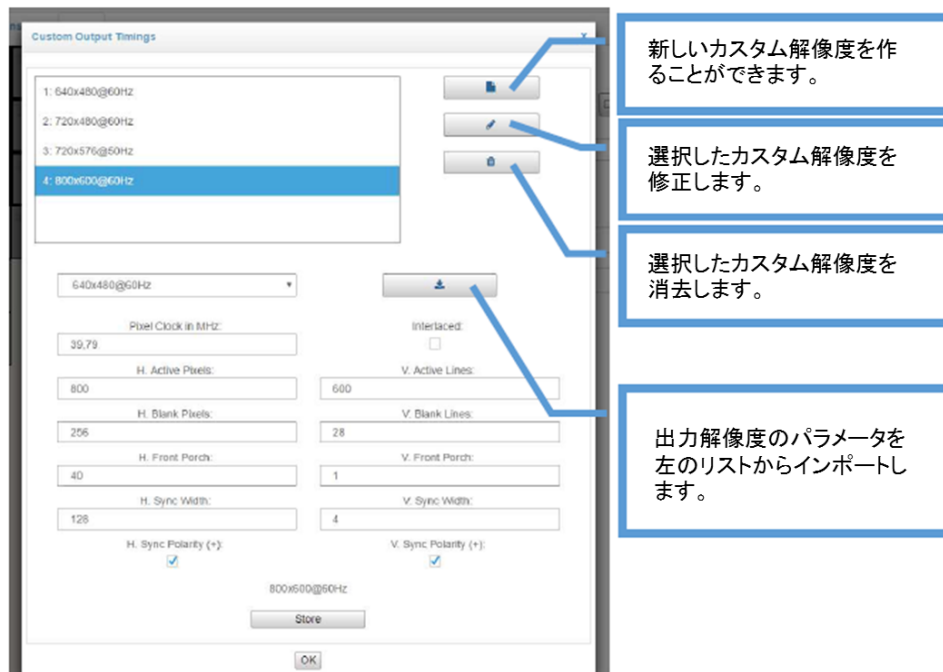
The screenshot shows a settings menu with the following sections:

- Monitor Position:**
 - 左 (mm): 0
 - 上 (mm): 0
- Display Area:**
 - 幅 (mm): 1920
 - 高さ (mm): 1200
- Monitor Bezel:**
 - 左 (mm): 0
 - 上 (mm): 0
 - 右 (mm): 0
 - 下 (mm): 0
- Test:**
 - Dropdown menu: いいえ
 - Copy button
 - Paste button
 - Set to All button
 - 適用 (Apply) button

設定項目 2 (個別)

5.2. カスタム出力解像度

DIVIP804KC は一般的な表示器で使われている解像度を内蔵しています。しかし LED パネルディスプレイ等を利用する際は、内蔵のリストにないフォーマットが必要となります。カスタム出力解像度機能を利用することにより、パラメータを変更することで出力解像度を作成することができます。



【図 5.1】 カスタム出力解像度設定画面

カスタム出力解像度設定画面により、新しい出力解像度を作成や修正、削除を行うことができます。カスタム出力解像度設定画面には、「設定」画面の「グリッドサイズ」上にある「Custom Timing」ボタンから入ることができます。

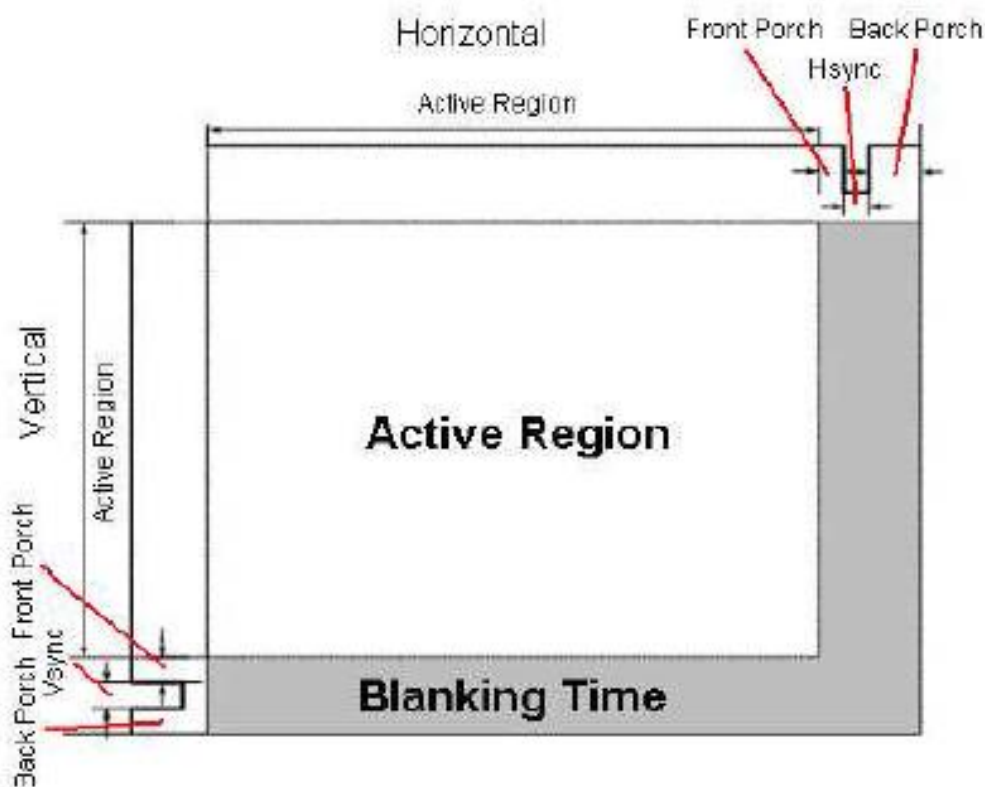


【図 5.2】 Custom Timing ボタン

カスタム出力解像度を設定することで、出力カードが対応している範囲内での出力解像度のリストを増やすことができます。作成したカスタム出力解像度は他の出力チャンネルでも使用することができます。

カスタム出力解像度設定画面には以下のパラメータがあります。

- Pixel Frequency (MHz)
- Active Area Width (pixels)
- H Blanking Interval (pixels)
- H Front Poach (pixels)
- H Sync Width (pixels)
- Active Area Width (pixels)
- V Blanking Interval (pixels)
- V Front Poach (pixels)
- V Sync Width (pixels)
- Sync polarities (positive もしくは negative)



[図 5.3] カスタム解像度設定画面

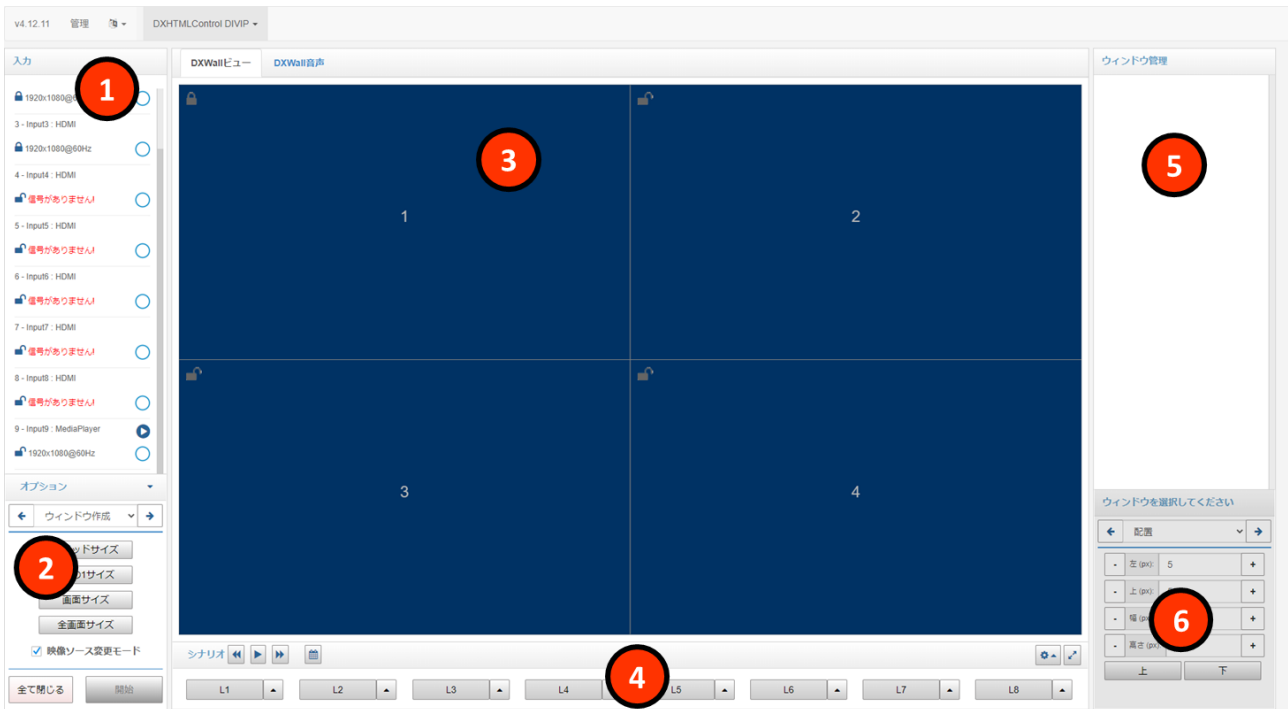
各パラメータの関係性は以下となります。

- $V \text{ Blanking Interval} = V \text{ sync} + V \text{ Back Porch} + V \text{ Front Porch}$
- $H \text{ Blanking Interval} = H \text{ sync} + H \text{ Back Porch} + H \text{ Front Porch}$
- $V \text{ Total Size} = V \text{ Blanking Interval} + \text{Active Area Height}$
- $H \text{ Total Size} = H \text{ Blanking Interval} + \text{Active Area Width}$
- $\text{Line Frequency} = \text{Frame rate} \times V \text{ total size}$
- $\text{Pixel Frequency} = \text{Line Frequency} \times H \text{ total size} = \text{Frame rate} \times V \text{ Total Size} \times H \text{ Total Size}$

【注意】 カスタム出力解像度を利用する際は、事前検証を行ってください。

5.3. ビデオウィンドウの説明

ビデオウィンドウ内容について説明します。

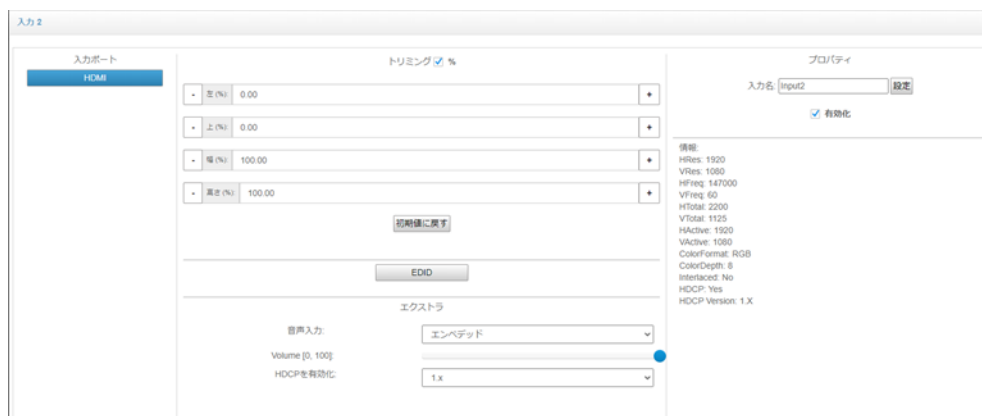


① 入力エリア	<p>入力チャンネルのステータスを表示します。 ここで認識された入力信号のタイミング（入力解像度およびリフレッシュレート）と HDCP のステータスを確認することができます。</p>
② オプション	<p>ドロップモードの変更、グリッドラインの設定、切換効果、DXWallビューのアスペクト比の設定を行います。 また「すべてを閉じる」ボタンを利用することで全てのウィンドウを閉じたり、「開始」ボタンを利用して DXWall ビュー上で行った変更を表示器に反映させたりすることが可能です（オプション内の「自動で反映させる」にチェックが入っている場合は、DXWall ビュー上で行った変更は直ちに反映されます）。</p>
③ DXWall ビュー	<p>ここでは表示したビデオウィンドウを表示器から表示器まで目地をまたいでドラッグすることが可能です。 その際には DXWall ビュー上でビデオウィンドウを表す四角形を選択し配置したい場所にドラッグしてください。ビデオウィンドウは表示器の目地をまたいで自由に動かすことができます。</p>

④ レイアウト シナリオ再生・手動切換	ビデオウィンドウのレイアウトを各レイアウトボタンに保存し、ボタン操作一つで簡単に呼び出すことが可能です。 保存したレイアウトは、表示時間を設定して自動で切り換えること（シナリオ再生）も可能で、その再生や手動での切換を各ボタンで操作できます。
⑤ ウィンドウ管理	開いているウィンドウの場所と入力のパラメータを表します。 ここでZ順序（最前面・最背面等）の設定が可能です。
⑥ ウィンドウプロパティ	ビデオウィンドウ内の映像の外観を表すパラメータの設定が可能です。 これらのパラメータはプロパティダイアログを利用して設定できます。

5.4. 入力設定

「設定」画面の「入力」パネルには入力チャンネルのステータスが表示されます。入力信号のタイミング（解像度およびリフレッシュレート）と HDCP のステータスを確認することができます。⚙️ アイコンをクリックして入力設定ウィンドウを開きます。入力設定ウィンドウでは、選択した入力ポートの入力信号タイプや、クロッピング、カラープロパティ、音声設定、HDCP 設定 (No / 1.x / 1.x - 2.2)、カスタム EDID 等のパラメータの設定を行うことができます。



【図 5.4】 入力設定 (入力 1)

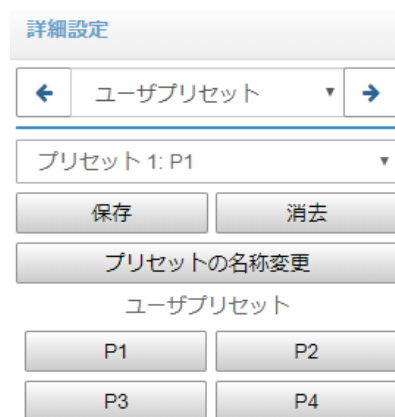
【注意】 カスタム EDID 機能を利用する際は、事前検証を行ってください。

5.5. 詳細設定 (Advanced Configuration)

設定ページの右側に、複数のタスク設定が可能なパネルがあります。

5.5.1. ユーザープリセット (User Presets)

システムアドミニストレータでは、すべてのシステム設定をプリセットとして利用することができます。4つの異なる設定がプリセットとして保存可能です。プリセットには、プリセット名を設定することができます。プリセットは、プリセットを割り当てたボタンをクリックすることでリストアすることができます。



[図 5.5] ユーザープリセット

【注意】 プリセットをリストアすると、システムは再起動しユーザーはログアウトします。設定を行うには再度ログインが必要です。

5.5.2. ネットワーク設定 (Remote Control)

Remote Control のネットワークパラメータを設定することができます。ローカルネットワークへの接続は、DHCP もしくは固定 IP アドレスにて行うことができます。IP アドレス、ネットワークマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS を設定できます。

詳細設定

← ネットワーク設定 ▼ →

IPアドレス: 192.168.1.100

ネットワークマスク: 0.0.0.0

Default Route:

Primary DNS:

Secondary DNS:

DHCP

適用

[図 5.6] ネットワーク設定

5.5.3. シリアルポート (Serial Port)

シリアルポートのパラメータを設定できます。

- ボーレート
- データビット
- パリティ
- ストップビット
- フロー制御

詳細設定

← シリアルポート ▼ →

ボーレート: 9600 ▼

データビット: 8 ▼

パリティ: None ▼

ストップビット: 1 ▼

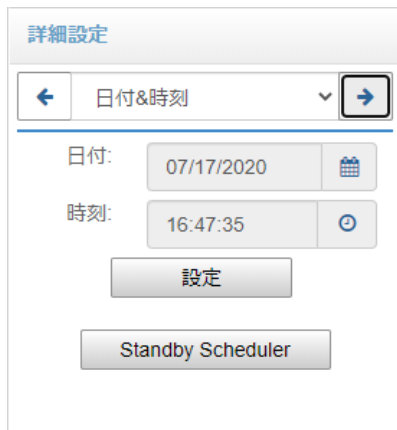
フロー制御: None ▼

設定

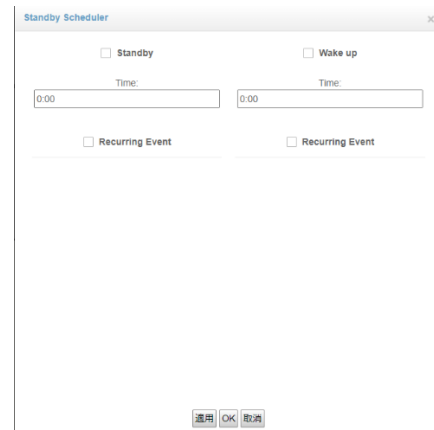
[図 5.7] シリアルポート

5.5.4. 日付&時刻 (Date and Time)

システムの日付と時間を設定できます。また、指定した時刻にシステムのスタンバイ、ウェイクアップをスケジュール実行することも可能です。



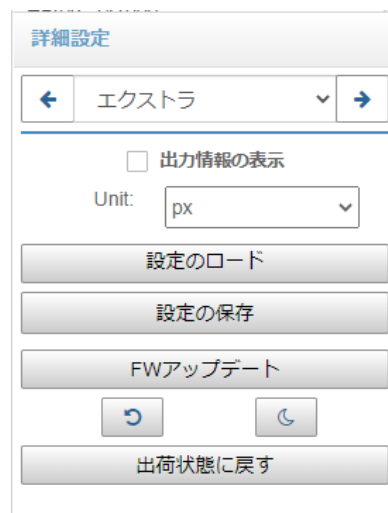
[図 5.8] 日付&時刻



[図 5.9] スタンバイスケジューラー

5.5.5. エクストラ (Extra)

いくつかのアドミニストレータのタスクは、Extra で実行できます。



[図 5.10] エクストラ

- **出力情報の表示**
チェックを入れると、出力解像度情報を各表示器上に表示します。設定画面を閉じると無効になります。
- **Unit**
ビデオウォール設定の数値の単位を変更できます。グリッドサイズを選択中は「px（ピクセル）」のみになります。個別を選択中は「mm」と「inch」から選択できます。

- **設定の保存**

現在の構成がファイルに保存されます。

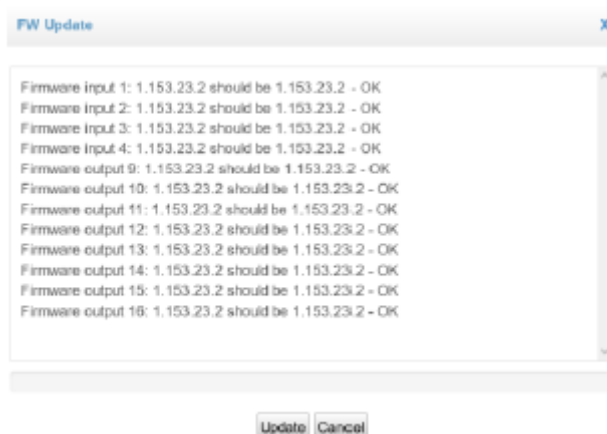
- **設定のロード**

前回保存した構成のファイルをロードできます。その際、ロード前の構成は消去されます。

【注意】構成をロードすると、システムは再起動しユーザーはログアウトします。設定を行うには再度ログインが必要です。

- **ファームウェアアップデート**

ファームウェアアップデートダイアログを開きます。Update ボタンを押すことで、新しいバージョンや別のバージョンのファームウェアがアップロードされます。



[図 5.11] ファームウェアアップデート

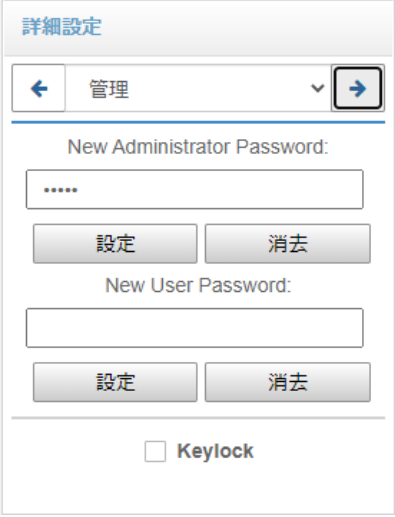
- **再起動/スタンバイ**

- **出荷状態に戻す**

全ての設定とプリセット、レイアウトが消去されます。

5.5.6. 管理 (Admin)

DIVIP には 2 つのビルトインユーザーアカウントがあり、1 つは "Administrator "というユーザー名の管理者アカウント、もう 1 つは "User "というユーザー名の一般ユーザーアカウントがあります。こちらの画面でアカウントのパスワード変更が可能です。



[図 5.12] 管理


管理者アカウントのパスワードは工場出荷時に「dexion」で設定されています。一般ユーザーのパスワードは未設定（空白）です。

【注意】 こちらの設定項目は Administrator アカウントのみ設定変更が可能です。

また、「Keylock」にチェックを入れると、本機フロントパネルのボタン操作をロックできます。

5.5.7. ロゴ

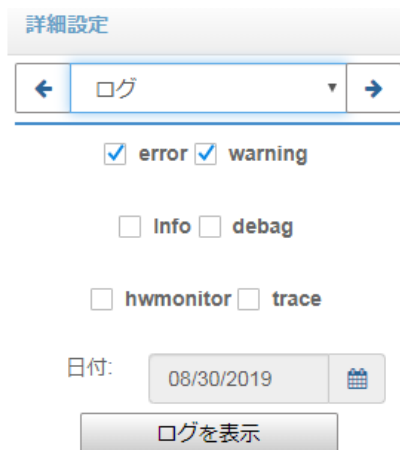
ロゴを設定することができます。ロゴはユーザーインターフェースウィンドウの右上に表示されます。ユーザーロゴのイメージは最大 1 MB の png フォーマットで登録してください。



[図 5.13] ロゴ

5.5.8. ログ (Logging)

システムの異なるオペレーションをログとして保存することができます。システムログはファイルに保存されます。ログは日付ごとに別のファイルに保存されます。ログファイルは日付によって区別され呼び出すことができます。システムログは 180 日間保存されます。



詳細設定

← ログ ▾ →

error warning

Info debug

hwmonitor trace

日付: 08/30/2019

ログを表示

[図 5.14] ログ

以下のログタイプメッセージを保存することが可能です。

- Error
- Warning
- Info
- Debug
- HW Monitor
- Trace

エラーメッセージや警告メッセージのログは通常運用で利用されます。そのタイプのログメッセージはユニットの診断目的での利用が想定されています。デバッグメッセージや診断メッセージのデータは大きくなります。

5.5.9. 情報 (Hardware Monitor Info)

ハードウェアモニタは、ソフトウェアシステムによって収集されます。4 タイプのデータがあります。

PS : 電源

PWR : 電圧

FAN : ファン回転速度

TEMP : 温度

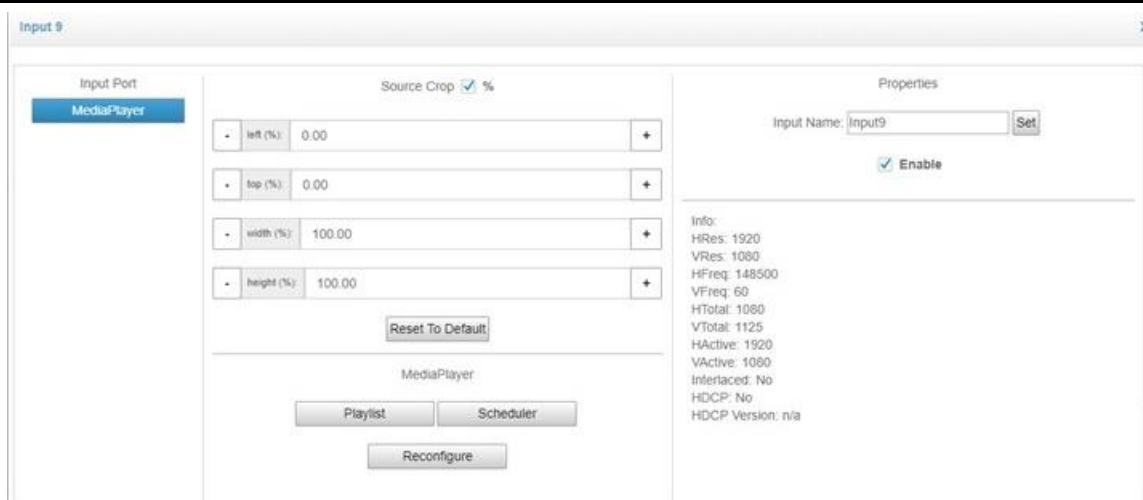


[図 5.15] 情報

センサーが正常な変数を測定している際は、緑色のランプが表示されます。1つもしくは複数の変数が適正な領域を超える場合、赤色のランプが表示されます。センサーで測定されたデータについての詳細情報は、リスト上で確認できます。

実際に測定されたデータは、自動的にアップデートされます。

5.6. メディアプレーヤー機能



[図 5.16] 入力 9 設定画面



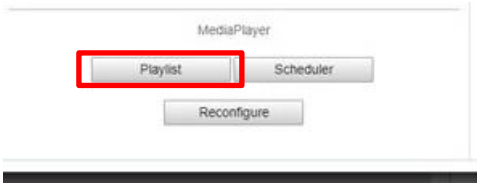
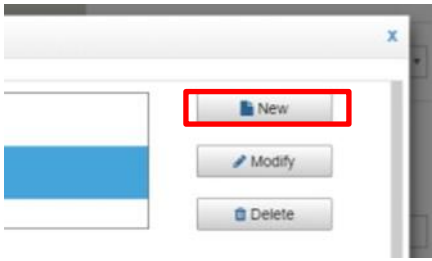




9番の入力ポートはデジタルサイネージ入力になっており、メディアプレーヤー機能を利用することで、デジタルサイネージプレゼンテーションが可能になります。カレンダーベースのプレゼンテーションや静的プレイリストのプレゼンテーションを作成することができます。プレゼンテーションには様々な種類のコンテンツを使用することができます。

- AVI もしくは H.264 に対応した USB ファイルもしくはディレクトリ上のビデオ
- AVI もしくは H.264 に対応したネットワークビデオファイルもしくはディレクトリ上のビデオ
- IP ストリーミング (RTSP)
- HTML5 Web ページ
- VNC クライアント

5.6.1. プレイリストの作成

以下の手順でプレゼンテーションのプレイリストを作成します。

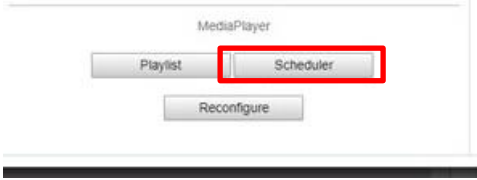
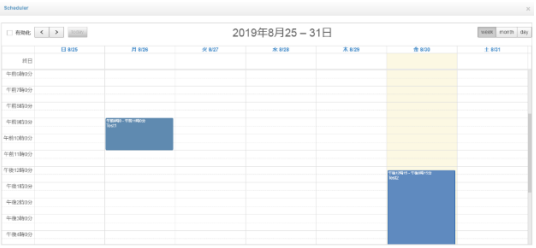
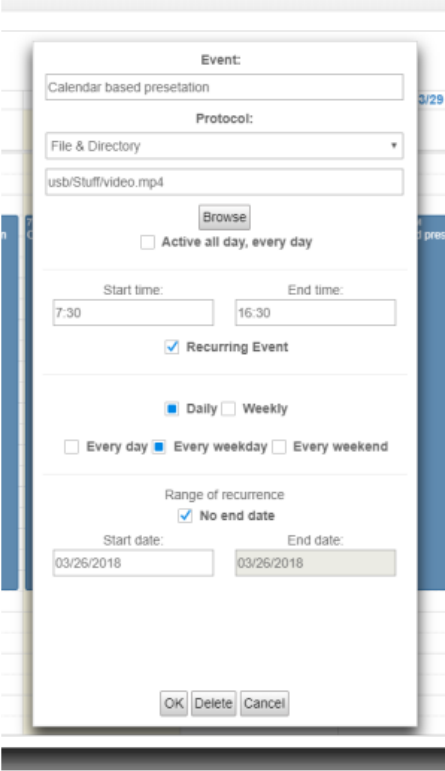
<p>ステップ1. 画面上部の「DXHTML Control DIVIP」のタブをクリックし「設定」を選択してください。</p>	
---	--

<p>ステップ2. 設定画面左側の入力ウィンドウから、「Input9 : MediaPlayer」の設定ボタンをクリックします。</p>	
<p>ステップ3. 入力9の詳細設定画面が表示されます。「Playlist」ボタンをクリックします。</p>	
<p>ステップ4. プレイリストウィンドウが表示されます。「New」をクリックします。</p>	
<p>ステップ5. 設定ウィンドウが表示されます。Nameのテキストボックスに、このプレゼンテーションに対する適切な名前を入力します。</p>	
<p>ステップ6. プロトコルのドロップダウンリストから、プレゼンテーションの種類を選択します。</p>	
<p>ステップ7. 再生するメディアの場所（ファイルパス、URL、IPアドレス等）を入力します。「Browse」ボタンを押すことで、リストからメディアファイルを選択することも可能です。</p>	
<p>ステップ8. 入力が完了したら、Store ボタンをクリックします。</p>	

【注意】 作成したプレゼンテーションをアクティブにするには、名前の左にあるチェックボックスを選択してチェックを入れてください。一度にアクティブにすることができるプレゼンテーションは1つです。このアクティブ化は、コントロールセクションでも変更することができます。このプレイリストプレゼンテーションの優先順位は、カレンダーベースのプレゼンテーションよりも高くなります。

5.6.2. スケジュールの作成

以下の手順でプレゼンテーションを実行するスケジュールを設定します。

<p>ステップ1. 入力9の詳細設定画面にて、「Scheduler」ボタンをクリックします。</p>	
<p>ステップ2. カレンダーが表示されます。カレンダーからプレゼンテーションを再生させたい日付をクリックします。</p>	
<p>ステップ3. 設定ウィンドウが表示されます。Nameのテキストボックスに、このプレゼンテーションに対する適切な名前を入力します。</p>	
<p>ステップ4. プロトコルのドロップダウンリストから、プレゼンテーションの種類を選択します。</p>	
<p>ステップ5. 再生するメディアの場所（ファイルパス、URL、IPアドレス等）を入力します。「Browse」ボタンを押すことで、リストからメディアファイルを選択することも可能です。</p>	
<p>ステップ6. 常時プレゼンテーションを表示する場合は、「Active All Day Every Day」ボックスにチェックを入れてください。 「Active All Day Every Day」を有効にすると、スケジュールプレゼンテーションウィンドウ内にある他のスケジュールオプションすべてが無効になります。</p>	
<p>ステップ7. プレゼンテーションの開始時刻と終了時刻を設定したい場合は、「Start Time」と「End Time」を入力します。</p>	
<p>ステップ8. 特定の時間帯で繰り返してプレゼンテーションを利用したい場合は、「Recurring Event」をチェックし</p>	

<p>てください。以下のオプションが選択できるようになります。</p> <p>Daily</p> <ul style="list-style-type: none">・ Every day 毎日・ Every weekday 毎平日（月～金）・ Every weekend 毎週末（土、日） <p>Weekly 実行する曜日を選択できます。</p> <p>「Recurring Event」をチェックした際は、「Start Date」と「End Date」を設定する必要があります。</p>	
<p>ステップ9. 設定が完了したら、[OK]をクリックします。</p>	

【注意】 すべてのイベントを無効にするには、左上にある「Enable」チェックボックスを外してください。

5.7. ビデオウォール操作方法

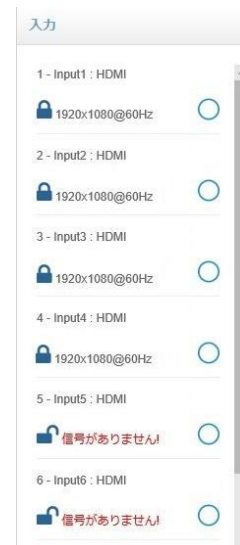
ビデオウォールの操作方法について、以下で説明します。

ステップ1.

画面上部の「DXHTML Control DIVIP」のタブをクリックし、「コントロール」を選択してください。これにより、ビデオウォールのコントロールが可能となります。

表示したい入力ソースを、希望するポジションに配置する際は、以下の手順で行います。

1. 入力エリアの中の表示したい入力ソース右の○を選択します。鍵のマークがついているソースは HDCP が付加されています。
2. 映像の表示位置は以下の方法で行うことができます。
 - 入力エリアで入力ソースを選択後、DXWall ビュー上の任意の場所をクリックします。
 - インプットエリアで入力ソースを選択し、そのまま DXWall ビュー上の任意の場所へドラッグしてドロップします（ドラッグアンドドロップモード）。



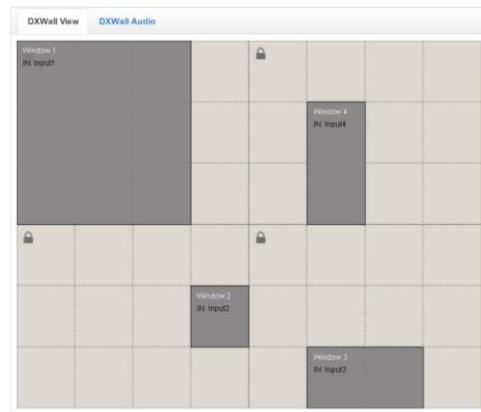
ステップ2.

ドラッグアンドドロップモードを利用するにあたって、ドロップモードを使うとビデオを既定のサイズで開くことができます。

1. オプションからウィンドウ作成を選択します。
2. グリッドサイズ、4分の1サイズ、画面サイズ、全画面サイズから選択します。
 - デフォルトサイズモード(Default Size Mode) : ボタンを選択しない場合、ウィンドウはデフォルトサイズで表示されます。

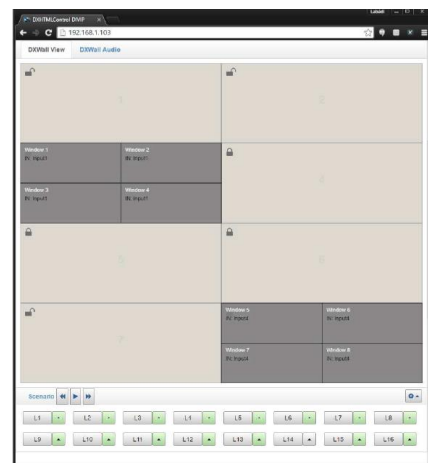


- **グリッドサイズ :**
選択されたグリッドによって定められるエリアに合わせて表示されます。



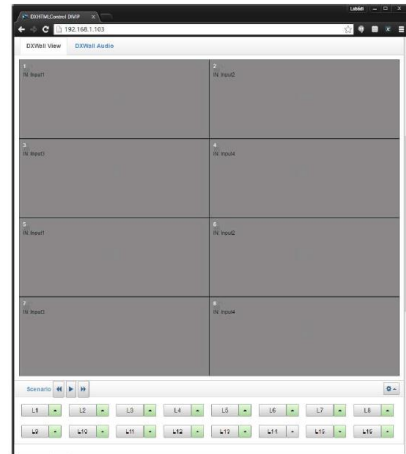
グリッドサイズ

- **4分の1サイズ :**
選択されたスクリーンの 1/4 のサイズで表示されます。



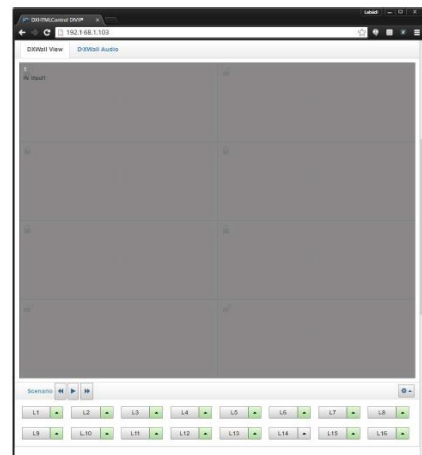
4分の1サイズ

- **画面サイズ :**
ウィンドウはドロップ先のスクリーンサイズいっばいに広がります。



画面サイズ

- **全画面サイズ :**
ウィンドウはビデオウォールサイズいっばいに広がります。

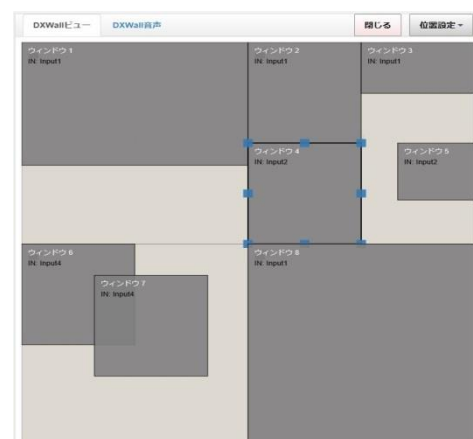


全画面サイズ

「すべてを閉じる」を押すことで開いているウィンドウをすべて閉じることができます。

ステップ3.

DXWall ビュー上の濃い灰色の長方形をクリックすると、ウィンドウがアクティブになります。またコーナー近くにある青い四角形をドラッグして動かすことで、ウィンドウのサイズを変更することが可能です。



ステップ4.

DXWall ビュー上の入力ウィンドウをドラッグすることで、各入力ウィンドウを希望の配置に移動できます。

正確にサイズ変更したい場合には、DXWall ビュー上のウィンドウをクリックすると、DXWall ビューの右上にウィンドウ操作メニューが表示されます。

「閉じる」をクリックすると、選択されたウィンドウが削除されます。

「位置設定」のドロップダウンから選択したウィンドウのサイズが変更できます。



ウィンドウ操作メニュー



グリッドに合わせる
画面に合わせる
4分の1のサイズに合わせる
全画面サイズに合わせる

位置設定サブメニュー

5.8. プロパティ設定 (Property settings)

DXSever はビデオウィンドウに様々なタイプの映像信号を表示するため、異なるデコードを利用しています。

信号デコードメカニズムにより、ビデオウィンドウへの映像表示のパラメータが決定されます。それらのパラメータは、「コントロール」画面のプロパティダイアログにて設定できます。パラメータは機能グループごとに分類され、右下のセクションのタブ上に表示されます

5.8.1. 配置



[図 5.17] 配置プロパティページ

配置ページには以下のパラメータがあります。

- 左、上、幅、高さを設定できます。これらの設定によりビデオウィンドウの位置とサイズを決定します。
- 上と下を設定できます。これらの設定によりビデオウィンドウのZ順序(上部・下部)を設定できません。

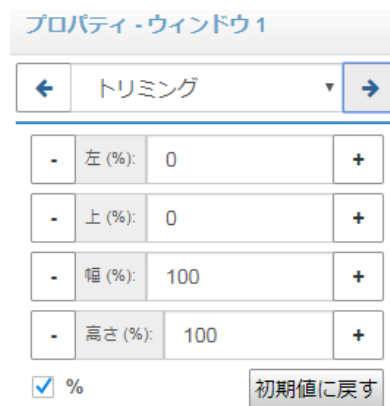
5.8.2. アスペクト比を維持



[図 5.18] アスペクト比を維持プロパティページ

ビデオコンテンツを歪みなく表示するため、DXServer は入力映像のオリジナルのアスペクト比を維持する必要があります。サーバーがコンテンツのアスペクト比を維持した場合、ウィンドウのサイズ変更は「サイズ基準」セクションと「位置基準」セクションに依存します。

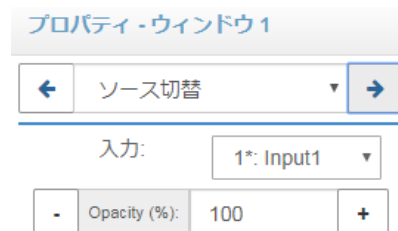
5.8.3. トリミング



[図 5.19] トリミングプロパティページ

ウィンドウ上に表示する入力信号の一部を切り出して表示することができます。切り出しは、左、上、幅、高さの変数を調整することで行うことができます。「Reset」ボタンを押すと、変数はデフォルト値に戻ります。

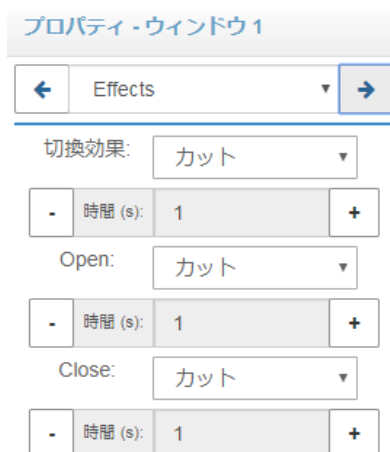
5.8.4. ソース切替



[図 5.20] ソース切替プロパティページ

ウィンドウの透明度設定が可能です。Opacity を 100% に設定すると不透明の状態となり、Opacity の数値を下げていくとウィンドウが透明になって背面のウィンドウが透けて表示することが可能となります。また、選択したウィンドウの入力チャンネルを変更することができます。

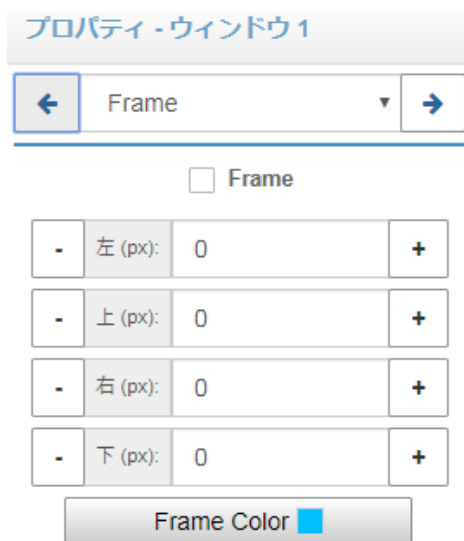
5.8.5. Effects



[図 5.21] Effects プロパティページ

ウィンドウを開閉時と映像切換時の効果と時間を設定できます。

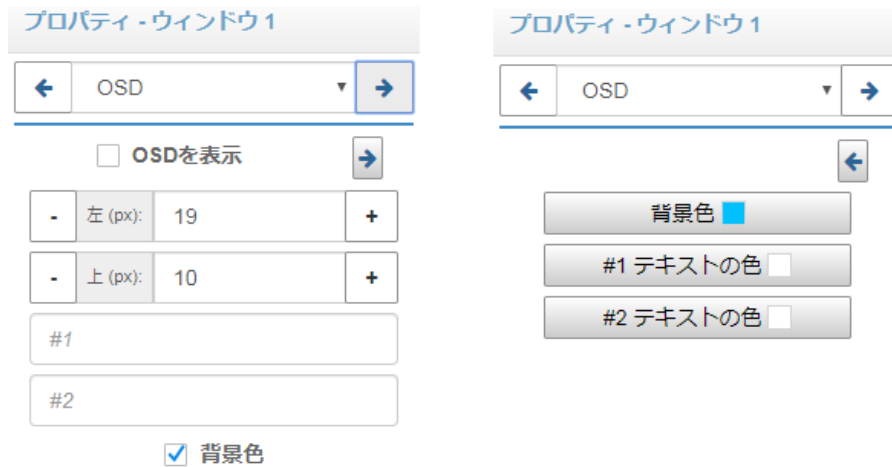
5.8.6. Frame



[図 5.22] Frame プロパティページ

選択したウィンドウにフレームを付けることができます。フレームのサイズと色を設定できます。

5.8.7. OSD



[図 5.23] OSD プロパティページ

選択したウィンドウ上に OSD を設定することができます。OSD は 2 つまで設定することができ、それぞれ文字色と背景色を設定することができます。以下の変数を利用できます。

[表 5.1] 使用可能変数一覧

変数	DXServer の表記
[input_name]	入力名
[input_id]	入力シリアルナンバー
[input_port]	入力選択ポート
[input_timing]	入力タイミング
[input_hdcp]	入力 HDCP ステータス ("HDCP"もしくは"")
[output_name]	出力名
[output_id]	出力シリアルナンバー
[output_timing]	出力タイミング
[output_rotation]	出力ローテーション
[output_hdcp]	出力 HDCP ステータス ("HDCP"もしくは"")
[window_id]	ウィンドウ ID
[window_position]	ウィンドウポジション
[window_size]	ウィンドウサイズ
[alarm_osd]	入力信号が無効な場合は OSD が表示され、有効な場合は OSD は表示されません

5.9. 音声入出力マトリクス操作方法

ステップ1.

DXWall ビューエリアにある「DXWall 音声」タブを選択します。デフォルトでは、音声入出力のマトリクス画面はグリッドモードで表示されています。



※ 画面上部にある「グリッドサイズ」のチェックを外すことで、アサインメント画面の表示を切り換えることが可能です。

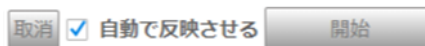
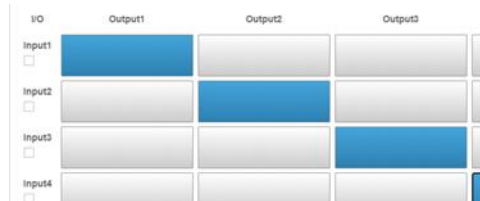
ステップ2.

入力チャンネルと出力チャンネルが交差するボタンをクリックします。ボタンが緑色で表示され、選択した入力ソースの音声が出力されます。



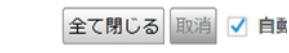
※ 選択したボタンが青色で表示されている場合は、待機中の状態で、まだ音声は出力されていません。この状態から「開始」ボタンを押すと、音声が出力されます。

※ 自動的に反映させる場合は、画面下部にある「自動で反映させる」にチェックを入れてください。



ステップ3.

緑色のボタンをもう一度クリックすると、音声出力が停止します。「全て閉じる」ボタンを押すことで出力中の全ての音声を停止できます。



5.10. シナリオ操作

ビデオウィンドウのレイアウトを保存し、複数のレイアウトから構成されるシナリオを作ることができます。

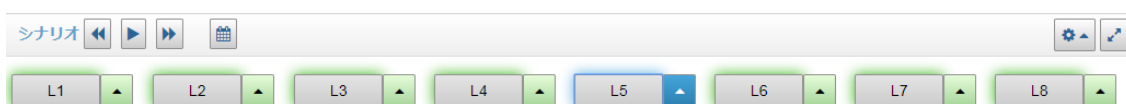
シナリオを利用することにより、ユーザーは DXHTML Control を利用する際に毎回ウィンドウの設定を行う必要がなくなり、シナリオの開始によりレイアウトのシーケンスを実行することができます。DXServer はレイアウトを最大 32 まで保存・実行できます。

5.10.1. DXScenario User Interface

DXHTMLControl の「コントロール」画面から、シナリオの表示、作成が可能です。



[図 5.24] DXHTMLControl コントロール画面



[図 5.25] DXScenerio コントロール画面

既存のシナリオを開始する際は、シナリオのパネルヘッダー上の「開始」ボタンをクリックしてください。シナリオファイルは、.xml extension を保持しています。シナリオは、シナリオパネル上のレイアウトボタン（トグルボタン）によって構成されます。選択したシナリオのレイアウトを表示する際には、シナリオパネル上のレイアウトをクリックしてください。シナリオは、同じボタンを再度押すことで停止できます。シナリオは一度に一つのみ実行できます。



[図 5.26] DXScenerio 操作ボタン

5.10.2. シナリオファイルの編集と操作

以下のボタンを利用することにより、新しいシナリオファイルを作ることができます。

- 新しいシナリオの作成
「消去」メニューをクリックします。シナリオが登録されていない状態が復元されます。シナリオを作成するには、シナリオのステップを一つ一つ定義する必要があります。
- ステップの作成 / 保存
新しいステップを作成するには、保存したいレイアウトボタンの右側の▲をクリックし、保存を選択します。新しいレイアウトが保存され、元々あったレイアウトは上書きされます。
シナリオパネルの右下にある設定ボタンをクリックして「レイアウトの作成」を選択することでも、現在のウィンドウのレイアウト（配置）を保存できます。「レイアウトの作成」を選択した際、レイアウトは何も保存されていないレイアウトボタンに新規に保存されます。
- プロパティ
プロパティメニューからレイアウト名やステップの変更が可能です。ボタンの色は簡単に変更でき、ステップや時間のパラメータの追加を行うことができます。



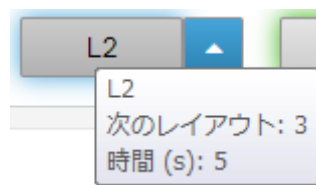
[図 5.27] DXScenerio プロパティメニュー

- シナリオの保存
本メニューをクリックすることで作成したレイアウト/シナリオを.xml ファイル形式でエクスポートできます。

- シナリオを開く
シナリオファイルに保存したビデオウィンドウのレイアウトをシナリオパネルにインポートするには、本メニューを選択します。シナリオファイルを1つ選択してロードすることができます。ロードされたシナリオファイルのレイアウトがシナリオパネルに復元されます。

レイアウト表示には、いくつかのオプションがあります。

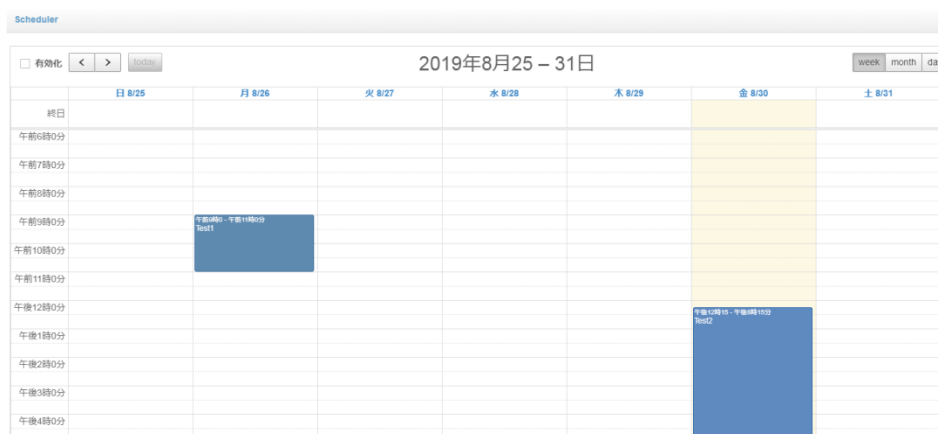
- シナリオの再生/停止
シナリオ再生機能は指定した時間でレイアウトをシーケンシャル表示することができます。シナリオ再生には、再生時間を設定する必要があります。
「再生」ボタンを押すと、選択したシナリオを表示します。設定した時間が経過すると、「次のレイアウト」で定義したレイアウトに切り換わります。再生時間を設定していない、または「次のレイアウト」を「オフ」に設定している場合は、シナリオ再生が停止します。「停止」ボタンをクリックすることで、シナリオ再生を手動停止することが可能です。



[図 5.28] DXScenerio ループ操作

5.10.3. カレンダーを利用した DXScenario ユーザーインターフェース

カレンダーを利用し、シナリオを動作させることができます。



[図 5.29] DXScenerio ユーザーウィンドウ (カレンダーベース)

5.10.4. スケジュールイベントの作成

以下の手順でプレゼンテーションを追加します。

1. カレンダーボタンを押します。
2. カレンダーからシナリオを動作させたい日付をクリックします。
3. 設定ウィンドウが表示されます。Name のテキストボックスに、このプレゼンテーションに対する適切な名前を入力します。
4. プロトコルドロップダウンリストから、イベントタイプを選択します。
 - Recall Layout = レイアウトの呼び出し
 - Text Over Serial Port = シリアルポートからテキストの送信
 - Hex Over Serial Port = シリアルポートから HEX の送信

シリアルポート経由で string もしくは byte array を送信できます。例えば、byte array なら 01 A4 05 30 01 は 1 byte = 2 hex digit とスペース 1 つを意味しています。

5. Recall Layout を選択した場合は呼び出し対象のレイアウトを選択します。Text (Hex) Over Serial Port を選択した場合は送信するデータを入力します。
6. 常時プレゼンテーションを表示する場合は、「Active All Day Every Day」ボックスにチェックを入れてください。「Active All Day Every Day」を選択すると起動時と毎晩 0:00 にプレゼンテーションがスタートします。
7. プレゼンテーションの開始時刻と終了時刻を設定したい場合は、「Start Time」と「End Time」を入力します。
8. 特定の時間帯で繰り返してプレゼンテーションを利用したい場合は、「Recurring Event」をチェックしてください。以下のオプションが選択できるようになります。

Daily

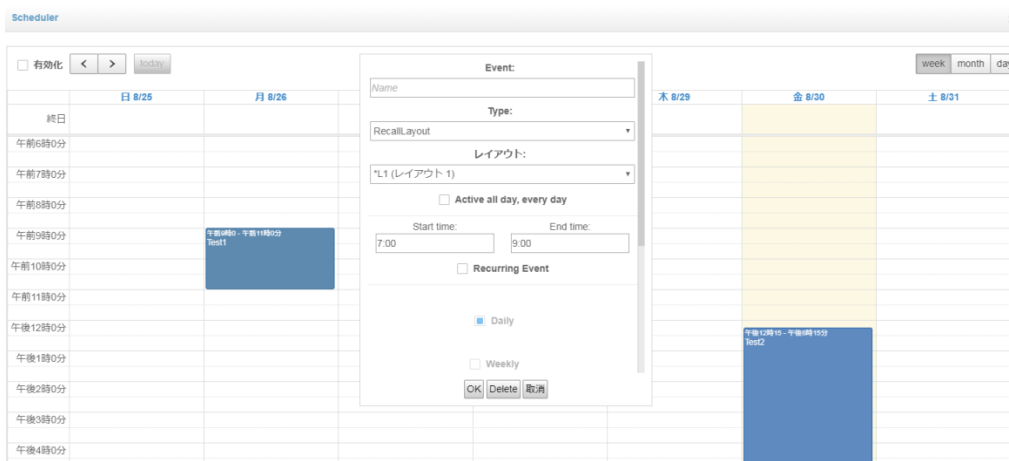
- ・ Every day 毎日
- ・ Every weekday 毎平日（月～金）
- ・ Every weekend 毎週末（土、日）

Weekly 実行する曜日を選択できます。

「Recurring Event」をチェックした際は、「Start Date」と「End Date」を設定する必要があります。

9. 設定が終わったら、「OK」をクリックしてください。

【注意】 すべてのイベントを無効にするには、左上にある「Enable」チェックボックスを外してください。



【図 5.30】 イベントパネル (カレンダーベース) の追加・修正

5.11. 外部キーボードを使った操作

標準のキーボード、またはプログラム可能なキーパッドを接続することで、作成済みのレイアウトを簡単に呼び出すことが可能です。レイアウトを呼び出す際のキーボードの組合せは、以下になります。

1. CTRL キーを長押しします。(CTRL KeyDown)
2. レイアウトの ID 番号 (レイアウトボタンに表示されている数字) を入力します。
3. CTRL キーを離します。(CTRL KeyUp)
4. 入力した ID 番号のレイアウトに切り換わります。

6. 製品仕様

項目		内容		
入力信号	映像	HDMI / DVI	8 系統 HDCP 2.2 対応 コネクタ : HDMI 端子 TypeA (19 ピン) 対応解像度 : VGA ~ 4K@30 (640 x 480 ~ 3840 x 2160) (注 1)	
		USB (注 2)	4 系統 コネクタ : USB Type A	
	音声	デジタル	8 系統 マルチチャンネルリニア PCM 最大 5.1 チャンネル コネクタ : HDMI 端子 TypeA (19 ピン)	
		アナログ	8 系統 ステレオ L/R アンバランス コネクタ : ターミナルブロック (3 ピン)	
出力信号	映像	HDMI / DVI	4 系統 HDBaseT 出力との分配出力 HDCP 2.2 対応 コネクタ : HDMI 端子 TypeA (19 ピン) 対応解像度 : VGA ~ 4K@30 (640 x 480 ~ 3840 x 2160) (注 1)	
		HDBaseT (注 3)	4 系統 HDMI/DVI 出力との分配出力 HDCP 2.2 対応 コネクタ : RJ-45 対応解像度 : VGA ~ 4K@30 (640 x 480 ~ 3840 x 2160) (注 1) 最大延長距離 : 100 m (1080p)、70 m (4K@30)	
	音声	デジタル	4 系統 HDBaseT 出力との分配出力 リニア PCM 2 チャンネル コネクタ : HDMI 端子 TypeA (19 ピン)、HDBaseT	
		アナログ	4 系統 ステレオ L/R アンバランス コネクタ : ターミナルブロック (3 ピン)	
機能	スキャンコンバート部	ピクチャ・イン・ピクチャ (PinP2)、完全シームレス切替 (注 4)、ベゼル補正機能、目地またぎ表示		
	その他	Web ブラウザ制御、メディアプレーヤー機能、スケジューリング機能		
外部制御	RS-232C	1 系統 コネクタ : ターミナルブロック (3 ピン)		
	LAN	1 系統 コネクタ : RJ-45		
その他仕様	電源電圧	100 - 240 VAC ± 10%, 50 Hz/60 Hz ± 3 Hz		
	消費電力	約 46 W		
	外形寸法	435 (W) x 67 (H) x 334 (D) mm (1.5U EIA ラックマウント、突起物含まず)		
	質量	約 3.5 kg		
	湿度	使用範囲 : +5 °C ~ +40 °C	保存範囲 : -20 °C ~ +60 °C	
	湿度	使用範囲 : 10 % ~ 90 % (ただし結露なきこと)	保存範囲 : 10 % ~ 90 % (ただし結露なきこと)	
	付属品	電源コード		

(注 1) インターレースは非対応となります

(注 2) メディアプレーヤー機能利用時に、入力として利用可能です

(注 3) Dexon 社専用受信器 : DCATR との接続が推奨となります

(注 4) PinP ウィンドウ表示時や切り換えによりウィンドウサイズが変更となる際は、シームレス切換とはなりません

7. 正常に動作しないときは

本機が正常に動作しない場合は、まず以下の点をご確認ください。また、本機に接続されている機器に原因がある場合もありますので、そちらの取扱説明書も参照しながらご確認ください。

- ・本機および接続されている機器の電源は投入されていますか？
- ・ケーブルは正しく接続されていますか？
- ・ケーブルの接触不良はありませんか？
- ・本機に適合した正しいケーブルを使用していますか？
- ・接続している機器同士の信号規格は適合していますか？
- ・シンク機器は正しく設定されていますか？
- ・機器の近くにノイズの原因となるようなものはありませんか？

以上の内容を確認しても問題が解決しない場合は、弊社の本社営業部または各営業所までご連絡ください。なお、故障の連絡をするときは、以下の点を事前にテストしてください。

No.	確認内容	結果
1	すべてのコネクタで同じ現象がでますか？	はい / いいえ
2	本機を全く介さずに、純正のケーブルで接続したときは正常に動作しますか？	はい / いいえ

DIVIP804KC 取扱説明書

<ユーザーズガイド>

Ver.1.0.0

発行日 : 2020 年 9 月 3 日



株式会社アルバニクス

本 社 〒242-0021 神奈川県大和市中心 7-9-1
TEL: (046) 259-6920
FAX: (046) 259-6930
E-mail: info@arvanics.com
URL: <http://www.arvanics.com>